

# Hirata

The Global Production Engineering Company

## 2018年3月期 決算説明資料

平田機工株式会社



# I. 決算状況

2018年3月期 (2018年3月31日)

Hirata

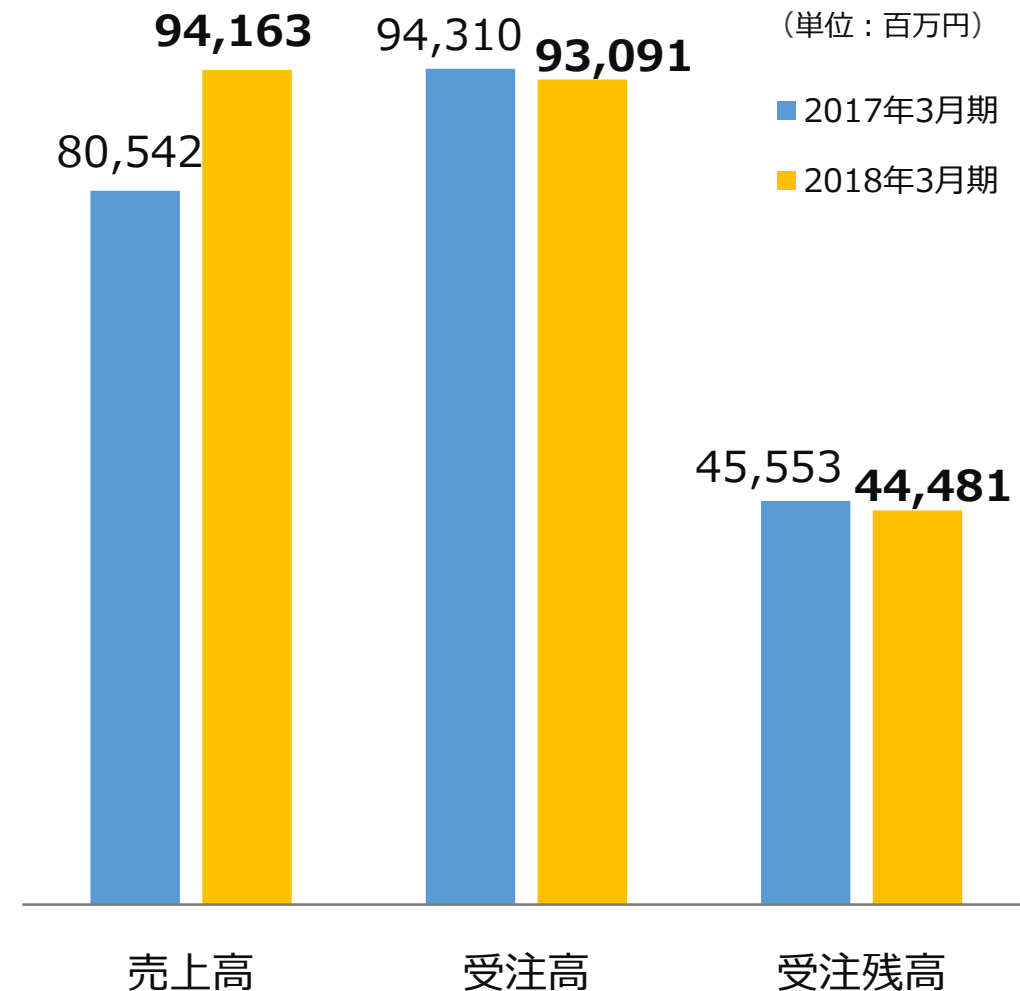


## 決算概要

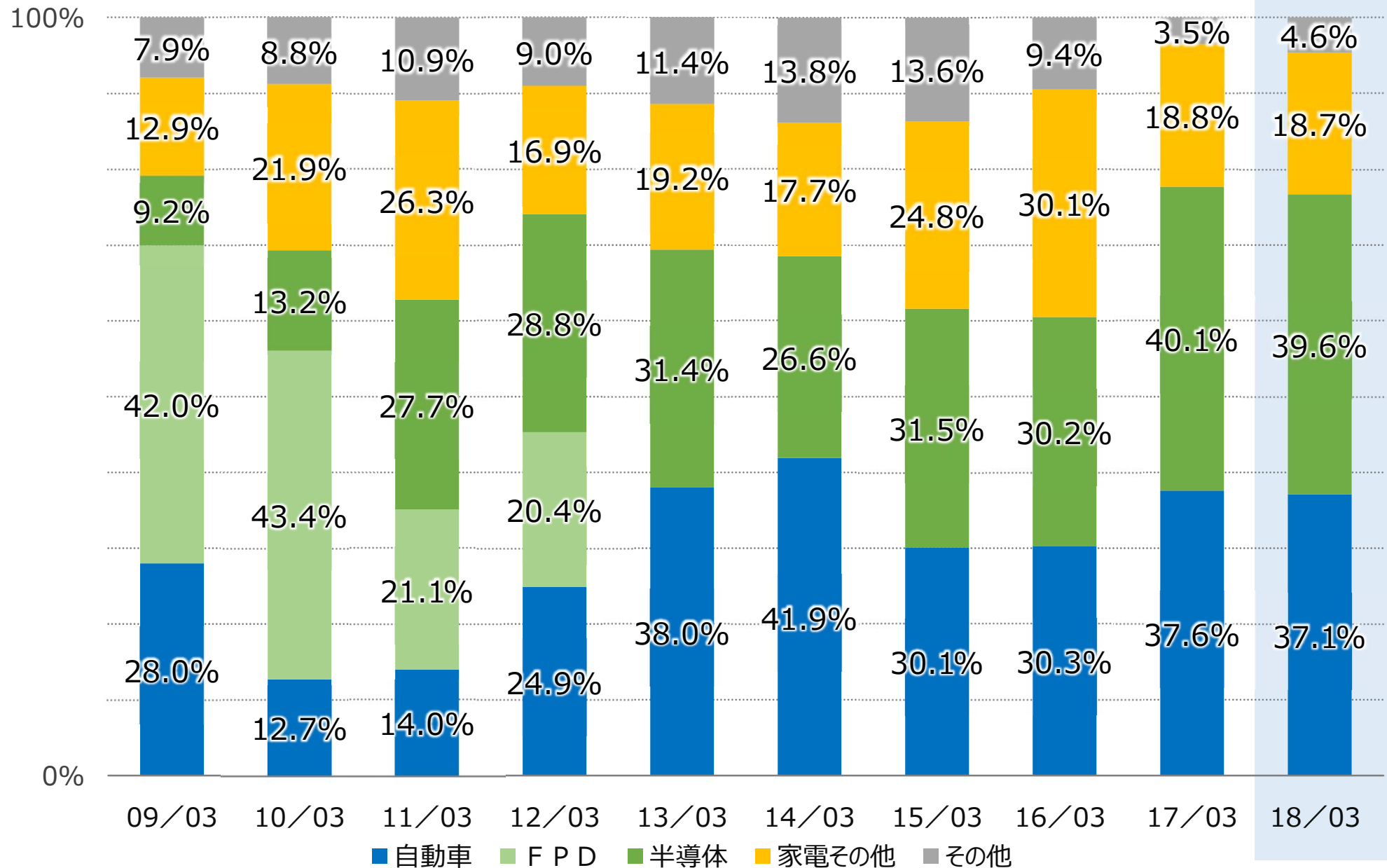
半導体関連生産設備事業における有機ELパネルの蒸着装置および自動車関連生産設備事業における北米メーカー向けのパワートレインおよび電気自動車（EV）関連、住宅・家電関連の売上が継続して好調であり、増収・増益となった。

(単位：百万円)

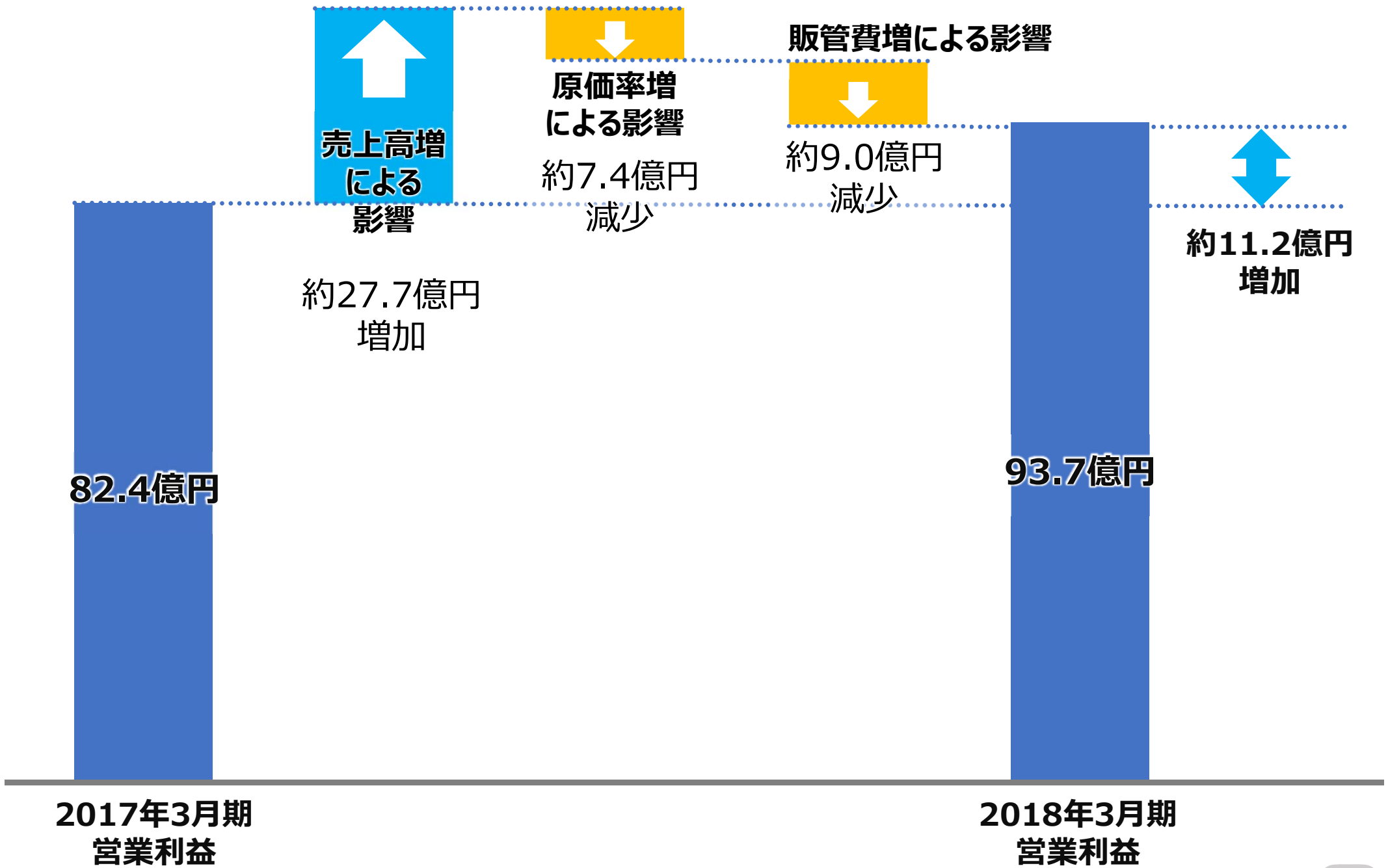
	2017年3月期 実績	2018年3月期 実績	増減率
売上高	80,542	<b>94,163</b>	+16.9%
営業利益	8,247	<b>9,371</b>	+13.6%
経常利益	8,039	<b>9,247</b>	+15.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,891	<b>6,666</b>	+13.2%



# I 決算状況 事業部門別売上高構成比推移



※2013年3月期より、FPD関連事業は半導体関連事業に統合



## 貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2017年 3月期	2018年 3月期	増減
流動資産	67,466	<b>73,026</b>	<b>+5,560</b>
固定資産	20,780	<b>22,876</b>	<b>+2,096</b>
有形固定資産	16,248	<b>17,376</b>	<b>+1,128</b>
無形固定資産	623	<b>814</b>	<b>+190</b>
投資その他資産	3,907	<b>4,685</b>	<b>+777</b>
資産合計	88,246	<b>95,903</b>	<b>+7,656</b>

負債	2017年 3月期	2018年 3月期	増減
流動負債	48,217	<b>37,485</b>	<b>△10,731</b>
固定負債	12,457	<b>11,834</b>	<b>△622</b>
負債合計	60,674	<b>49,320</b>	<b>△11,354</b>
<b>純資産</b>			
純資産合計	27,571	<b>46,582</b>	<b>+19,010</b>
自己資本比率	30.9%	<b>48.1%</b>	<b>+17.2Point</b>

### 主な増減項目

#### 資産

売上債権	+3,190
現金及び預金	+2,612
たな卸資産	+714

#### 負債・純資産

資本剰余金	+11,870
有利子負債	△4,828
仕入債務	△4,081

## 想定為替レート

(単位：円)

想定為替レート	2017年4月1日～2018年3月31日 実績レート	2018年4月1日～ 想定レート
為替レート (対US \$)	110.93円	100.00円

## 株価推移

(単位：円)

株価推移	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年3月期		
			1月	2月	3月
最高	3,100	9,560	12,930	12,230	10,630
最低	782	2,275	11,650	9,350	8,900
末日	2,752	9,010	12,020	10,560	9,780

## PER/PBR/ROE

PER/PBR/ROE	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
PER (倍)	16.08	14.43	15.26
PBR (倍)	1.22	3.12	2.26
ROE (%)	8.00	24.30	18.18

# I 決算状況 事業部門別売上高・受注高・受注残高

(単位：百万円)

	事業部門	2017/3	2018/3	対前年同期比 増減率
売上高	自動車	30,267	34,955	+15.5%
	半導体	32,289	37,338	+15.6%
	家電関連およびその他	15,165	17,569	+15.9%
	その他	2,819	4,299	+52.5%
	合計	80,542	94,163	+16.9%
受注高	自動車	40,485	27,028	△33.2%
	半導体	36,389	40,321	+10.8%
	家電関連およびその他	13,155	23,473	+78.4%
	その他	4,279	2,268	△47.0%
	合計	94,310	93,091	△1.3%
受注残高	自動車	25,385	17,458	△31.2%
	半導体	12,912	15,896	+23.1%
	家電関連およびその他	4,877	10,781	+121.0%
	その他	2,377	346	△85.4%
	合計	45,553	44,481	△2.4%



# I 決算状況 海外現地法人の状況

## 所在地別売上高



	日本		アジア		北米		欧州		合計	
	17/3	<b>18/3</b>	17/3	<b>18/3</b>	17/3	<b>18/3</b>	17/3	<b>18/3</b>	17/3	<b>18/3</b>
売上高	66,585	<b>73,942</b>	6,166	<b>9,156</b>	6,995	<b>10,189</b>	794	<b>874</b>	80,542	<b>94,163</b>
営業利益	6,824	<b>8,388</b>	683	<b>637</b>	707	<b>376</b>	52	<b>10</b>	8,267	<b>9,413</b>

※営業利益の合計はセグメント間の消去を行う前の金額を表示しています。

## 有機EL関連・電気自動車(EV)関連状況

### ●有機EL関連および電気自動車(EV)関連生産設備ともに高い水準で受注・売上に寄与

(単位：百万円)

	2017年3月期		2018年3月期	
	受注高	売上高	受注高	売上高
有機EL関連	21,815	19,016	20,009	20,722
電気自動車 (EV) 関連	11,852	4,625	3,117	8,751

#### ●有機EL関連

有機EL関連の売上は、前年同期比より増加し、半導体関連の売上のうち、約55%と大きな割合を占めております。また、受注高は前期同期比と同等の高い水準となっております。

#### ●電気自動車 (EV) 関連

電気自動車 (EV) 関連は、主力であるパワートレインに続く割合となっております。

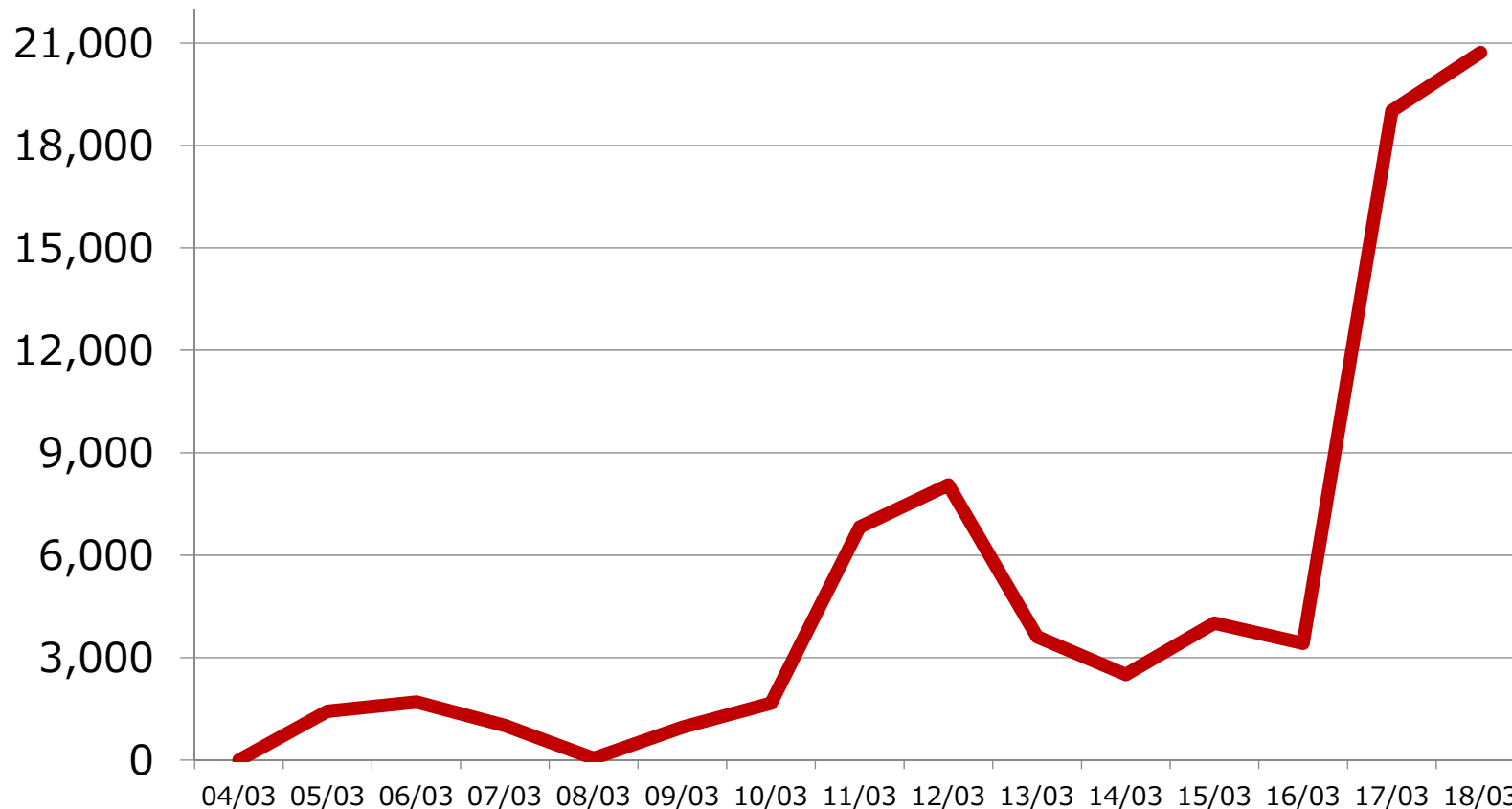
これからの成長市場であり、国内外ともに引合案件も多数あり、さらなる受注獲得に努めます。

## 有機EL関連設備の売上高推移

### ●有機EL関連設備 15年間の売上実績（研究開発期間含まず）

売上高 20,722  
受注高 20,009

（単位：百万円）



弊社の有機EL関連設備の初売上は2003年。スマートフォンの有機ELパネル採用による設備投資が本格化したのは2017年3月期。2018年3月期は約200億円を受注し、約207億円を売り上げ、飛躍的な売上増を記録。

キヤノントッキ株式会社（以下、キヤノントッキ社）と協同で有機EL設備の心臓部である真空蒸着装置を製造しております。

## お客さまからの表彰・受賞の実績を紹介

弊社は、キヤノントッキ社から有機ELパネルの生産設備の心臓部である真空蒸着装置（写真右下）を継続して受注しております。

今般、キヤノントッキ社の有機ELパネル生産設備事業に貢献したとして、「ベストパートナー賞」を受賞いたしました。これは、弊社が同社に納品している真空蒸着装置において、技術力・生産能力などを高く評価いただいたものと考えます。今後も継続する同社からの受注に対し、より高い信頼を得られる製品を提供してまいります。



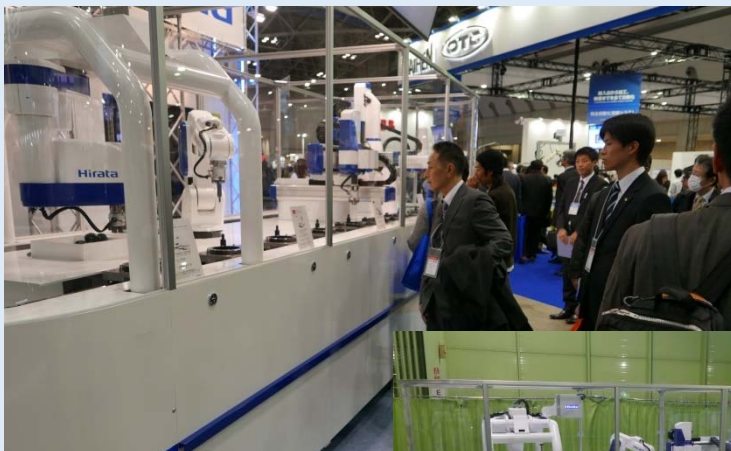
キヤノントッキ株式会社 代表取締役社長兼COO  
鶴澤 繁行 氏と一緒に



真空蒸着装置（イメージ）

## 国際展示会への出展

弊社は、2017年11月29日～12月2日、東京ビッグサイトにて開催された「2017国際ロボット展」に出展いたしました。その内容は、垂直多関節ロボット、水平多関節ロボット、直交型ロボットを計5台組み合わせた3Dピッキングによる組立ラインのデモ、IoTを活用して生産ラインの遠隔管理や保守サービスができるスマートファクトリー（2017年10月19日、株式会社インターネットイニシアティブとの協業を発表）の紹介、3次元CADによるバーチャルリアリティ工場見学の体験などであり、汎用ロボットメーカーとは異なる、機械・ソフト設計、プログラムなどのものづくりからIoTまで提供できるシステムインテグレータ(Sler)としての技術力をアピールいたしました。



ロボット5台による  
組立ラインのデモ



スマートファクトリーの紹介



## 2020年完成予定 熊本 新工場の着工

弊社は、熊本工場の敷地内に、3階建ての本社棟（延べ床面積6,000㎡）、4階建ての工場棟（15,841㎡）を一体化した本社/2棟工場を建設いたします。

2016年の熊本地震をうけ、建物の安全性も考慮し、一番古い工場を建て替え、みんなが安全に働ける場所として、世界中のお客さまに誇れる工場を目指します。また、弊社の事業を通して、熊本の雇用促進、経済向上を図り、地域に貢献したいと考えております。

新工場は、2018年1月15日に着工し、2020年1月に完成予定です。



新工場のイメージ



安全祈願祭での社長あいさつ

# I 決算状況 トピックス

## 地域貢献 熊本の支援・応援

以下の地域支援を通して、熊本復興の一助となるよう努めてまいります。

- ロアツソ熊本のメインスポンサー

2018年2月1日より、サッカー Jリーグ ロアツソ熊本のユニフォームスポンサーになりました。ロアツソ熊本の理念「県民に元気を、子ども達に夢を、熊本に活力を」に共感し、これからの活動を応援してまいります。

- 熊本城マラソン

2月18日開催の熊本城マラソンのスポンサーとなり、熊本開催のイベントを支援・応援いたします。



ロアツソ熊本  
弊社コーポレートシンボル入りのユニフォーム



熊本城マラソンの  
ポスターなど

## Ⅱ.市場動向および 2019年3月期業績の見通し

2018年3月期（2018年3月31日）

Hirata





※業績予想に修正はありません。

(単位：百万円)

	2018年3月期 実績		2019年3月期 予想	
<b>売上高</b>	94,163		<b>95,000</b>	
自動車関連	34,955		<b>40,000</b>	
半導体関連	37,338		<b>30,000</b>	
家電関連およびその他	17,569		<b>22,000</b>	
その他	4,299		<b>3,000</b>	
<b>営業利益（率）</b>	9,371	(10.0%)	<b>6,500</b>	<b>(6.8%)</b>
<b>経常利益（率）</b>	9,247	(9.8%)	<b>6,400</b>	<b>(6.7%)</b>
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益（率）</b>	6,666	(7.1%)	<b>4,400</b>	<b>(4.6%)</b>

### 通期業績予想の理由および事業計画達成のための施策

- 自動車関連では、内燃系に加え、電気自動車（EV）関連の生産設備の受注拡大に努める。
- 半導体関連では、IoT関連や自動運転技術などによるシリコンウェーハ搬送設備案件の拡大が見込まれるが、有機ELディスプレイ蒸着装置は、スマートフォン向けが市場をけん引するものの需要拡大のスピードが減速する可能性も予測される。
- 成長市場への積極的展開に加え、効率的な生産体制の構築、収益基盤の強化に努める。

### 自動車関連事業

世界の自動車販売数は、中長期的に増加の方向にあり、北米・中国・インド・タイなどでの販売拡大が予測される。今後、電気自動車（EV）が増加する見込み。国内は、需要が回復し、堅調推移の見通し。弊社は、トランスミッションなどのパワートレインおよびEV関連生産設備を中心に堅調推移の見込み。

### 半導体関連事業

半導体関連市場においては、自動車や家電など、さまざまな製品に半導体製品が使用されるようになったことから引き続き拡大。有機ELパネルにおいては、スマートフォン向けが市場をけん引し、テレビや車載ディスプレイの市場拡大が予測されるものの需要拡大のスピードが減速する可能性も予測される。

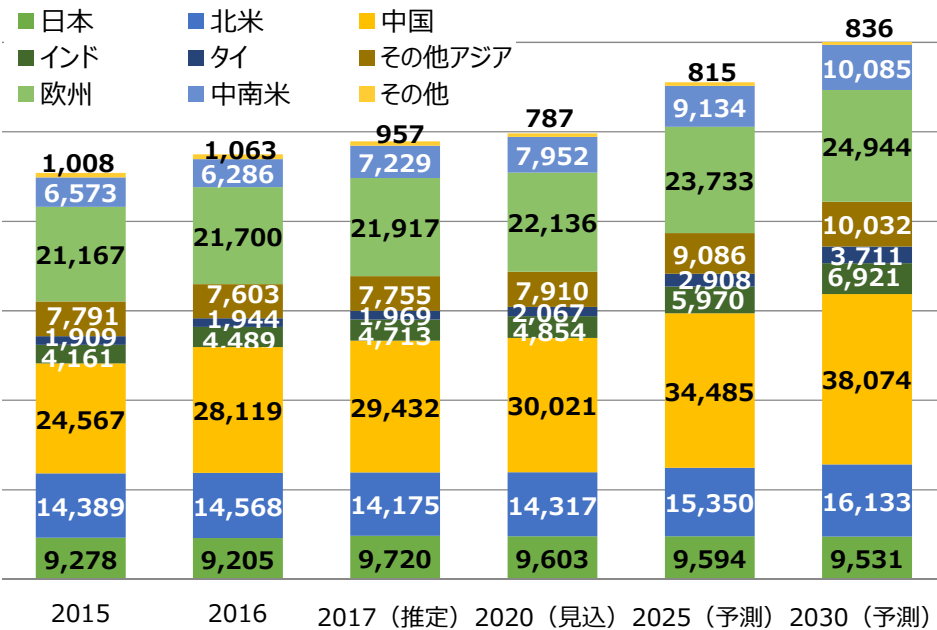
### 家電関連およびその他

中国市場において、需要の一巡による成長の鈍化も見られるが、富裕層向けの高級家電の需要が高まり、金額ベースでの市場は拡大する可能性あり。弊社は、主要顧客の商品である掃除機を中心とした高機能家電の生産設備について継続受注に努める。また、タイヤ関連の受注も見込まれる。

## Ⅱ 市場動向および2019年3月期業績の見通し

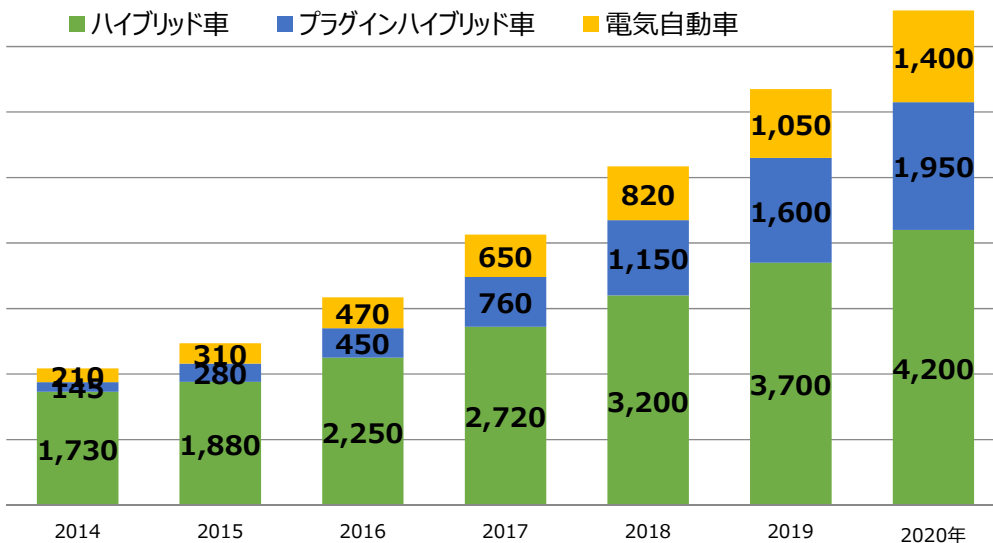
### 地域別自動車生産台数予測

(単位：千台)



### 電気自動車など環境対応車予測事情規模予測

(単位：千台)



### 自動車関連市場

#### ■ 2018年以降

- 世界的に生産台数は引き続き増加の見込み。
- 今後、電気自動車（EV）の保有台数が増加する方向であり、EV市場の拡大がさらに進むと予測。

#### ● 弊社の見込み

- 北米メーカーのパワートレインをおよび日本国内の部品メーカーなどを中心に堅調な見込み。
- 電気自動車（EV）については、国内外ともに対応を展開し、さらなる受注に努める。
- 北米に続き、欧州市場の拡大に努める。

出所 上段グラフ：調査会社S社資料

下段グラフ：2016年度版 主要デジタル機器、関連デバイス及び自動車関連機器の中長期的な市場分析 ～需要・生産・コストの現状分析と中長期予測～（2015年11月19日発行）

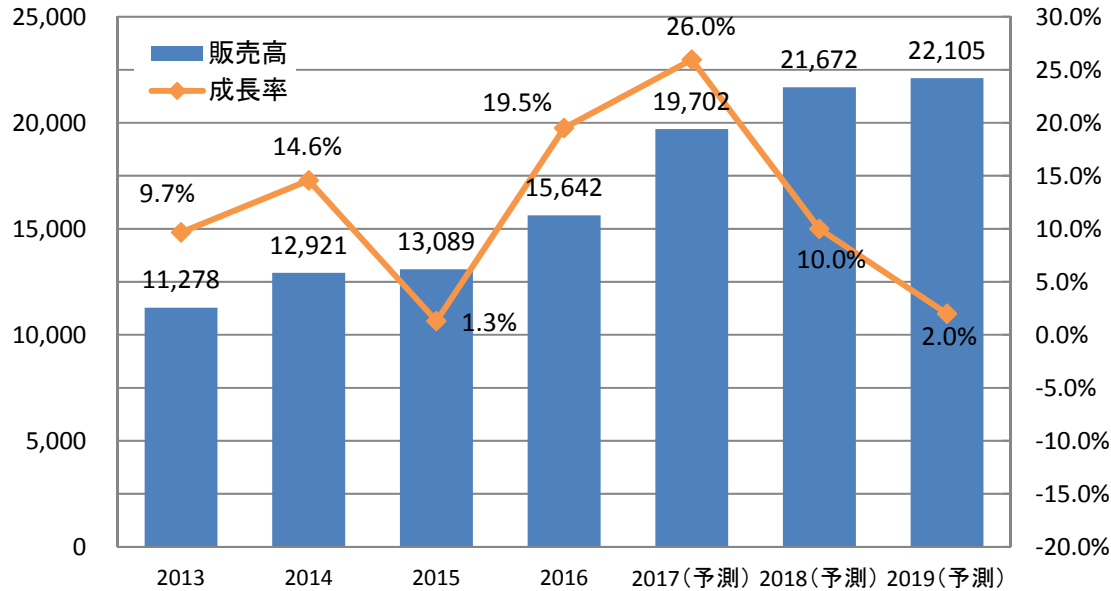
イーエムデータサービス株式会社

## Ⅱ 市場動向および2019年3月期業績の見通し

### 半導体製造装置の販売高と成長率

(単位：億円)

(成長率)



### 半導体・FPD関連市場

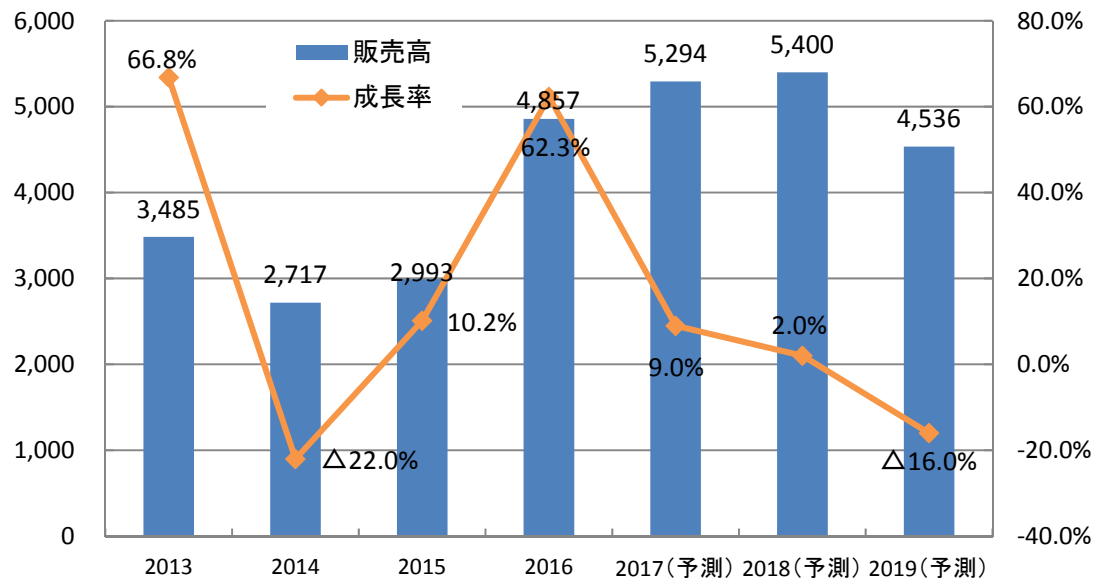
#### ■ 2018年以降

- 半導体製造装置
  - スマートフォンに加え、サーバー、ストレージ分野が注目される。
  - メモリー搭載量が増大され、DRAM、NANDともに供給不足。3D-NANDの搭載率が高まる。
  - 自動車の自動運転や産業機器へのAI活用、ビッグデータや高速処理などのIoT関連の成長に伴い、需要増加の見込み。
- FPD製造装置
  - 画面サイズの拡大、高精細化が進み、安定成長が続く。
  - 車載ディスプレイなど、高付加価値化の生産へ。

### FPD製造装置の販売高と成長率

(単位：億円)

(成長率)



#### ● 弊社の見込み

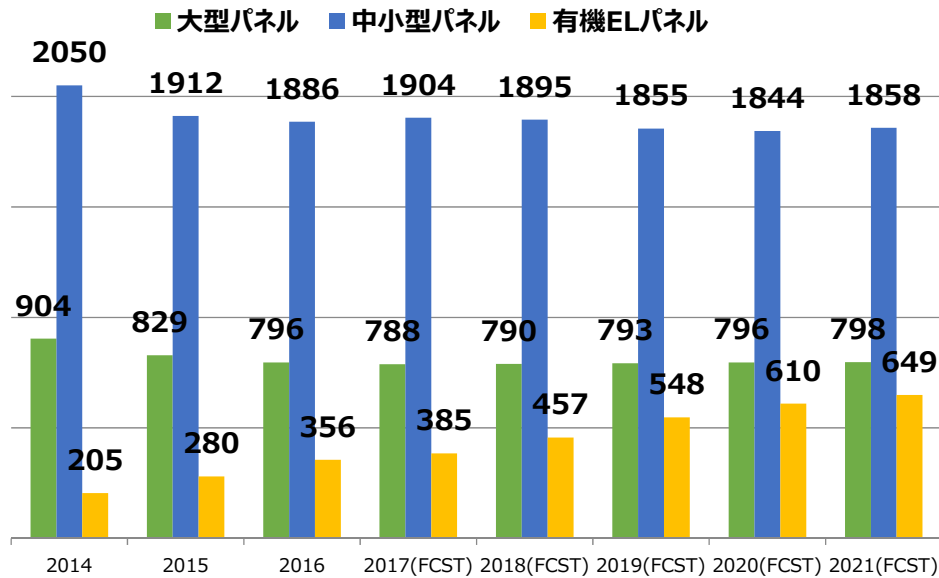
- 半導体製造装置は、受注がさらに拡大継続する見込み。
- FPD関連は、大型パネル向けのコーターなどが好調に推移する見込み。

出所 2018年1月発表 半導体・FPD製造装置 需要予測  
(2014年度～2019年度)  
SEAJ 一般社団法人日本半導体製造装置協会

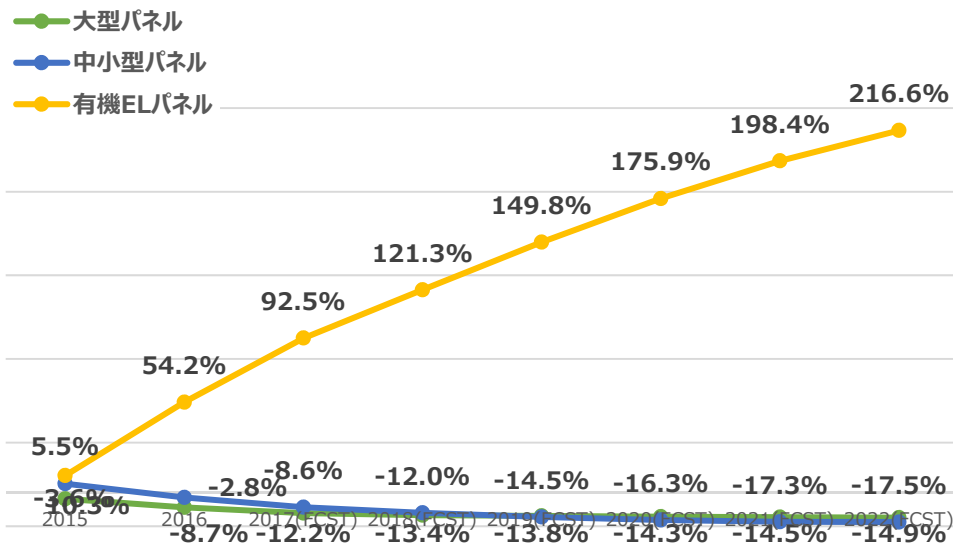
## Ⅱ 市場動向および2019年3月期業績の見通し

### 有機EL、液晶パネルのユニット製品・部品市場規模推移・予測

(単位：100万ユニット)



### 有機EL、液晶パネルのユニット製品・部品 対2013年比 成長率



### 有機EL・液晶パネル関連市場

#### ■ 2018年以降

#### ➤ 大型および中小型LCD

- 大型および中小型パネルは微減であるが、テレビの画面サイズの拡大や高精細化が進み、成長予想。
- その他、車載用途が期待され拡大傾向にある。

#### ➤ 有機ELディスプレイ

スマートフォン向けが大半だが、今後はテレビや車載ディスプレイでの市場拡大が予測される。

#### ● 弊社の見込み

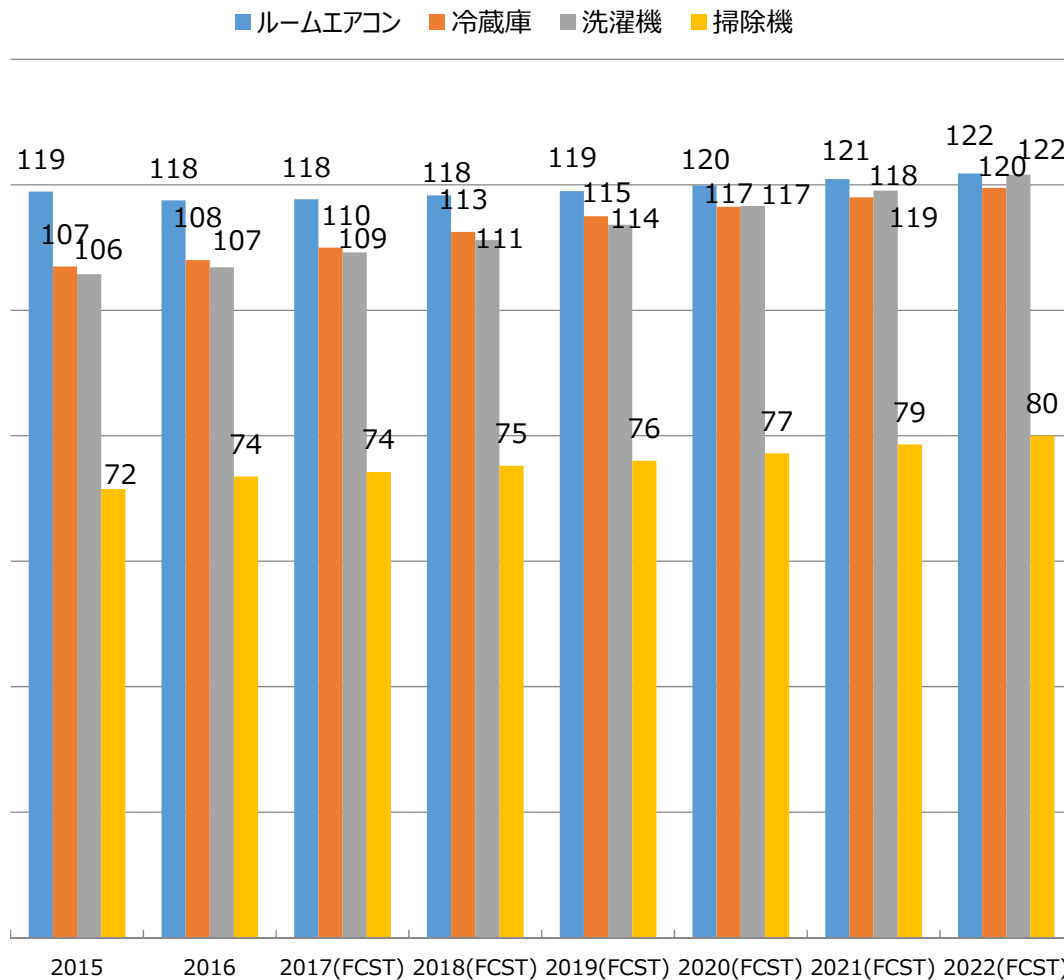
LCDの液晶塗布装置は好調。有機ELの製造工程に係る真空蒸着装置は、スマートフォン向けが市場をけん引するものの、減速も予測される。

出所 株式会社富士キメラ総研

## Ⅱ 市場動向および2019年3月期業績の見通し

### 家電製品市場予測

(単位：百万台)



### 家電市場

#### ■ 2018年以降

中国市場において、需要の一巡による成長の鈍化も見られるが、富裕層向けの高級家電の需要が高まり、金額ベースでの市場は拡大する可能性あり。

#### ● 弊社の見込み

タイヤ関連の受注が見込まれる。

掃除機関連は、継続した受注確保に努める。

出所 株式会社富士キメラ総研

## Ⅱ 2019年3月期業績の見通し 配当予想

### 1株あたり配当金・配当性向 推移

(単位：円)

	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期予想
1株あたり配当金	15.00	30.00	100.00	<b>125.00</b> うち記念配当25.00円	<b>125.00</b>
配当性向 (%)	16.4	17.5	16.0	<b>19.5</b>	<b>29.6</b>

※配当性向は連結ベースです。

### 配当予想について

弊社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しながら安定した配当を継続していくことを基本としつつ、一方で経營業績に応じた弾力的な配当を実施することも肝要であると考えており、業績、経営環境および財務状況等を総合的に勘案した上で決定しております。

2017年6月15日、弊社は東京証券取引所第一部に上場市場を変更いたしました。つきましては、株主の皆様のご支援に報いるため、2018年3月期の1株当たりの期末配当は、100円の普通配当に25円の記念配当を加え、合計125円を配当することといたしました。本件につきましては、2018年6月下旬に開催予定の定時株主総会において付議する予定であります。なお、2019年3月期の1株当たりの期末配当は、125円を予定しております。

# Ⅲ. 参考資料

2018年3月期 (2018年3月31日)

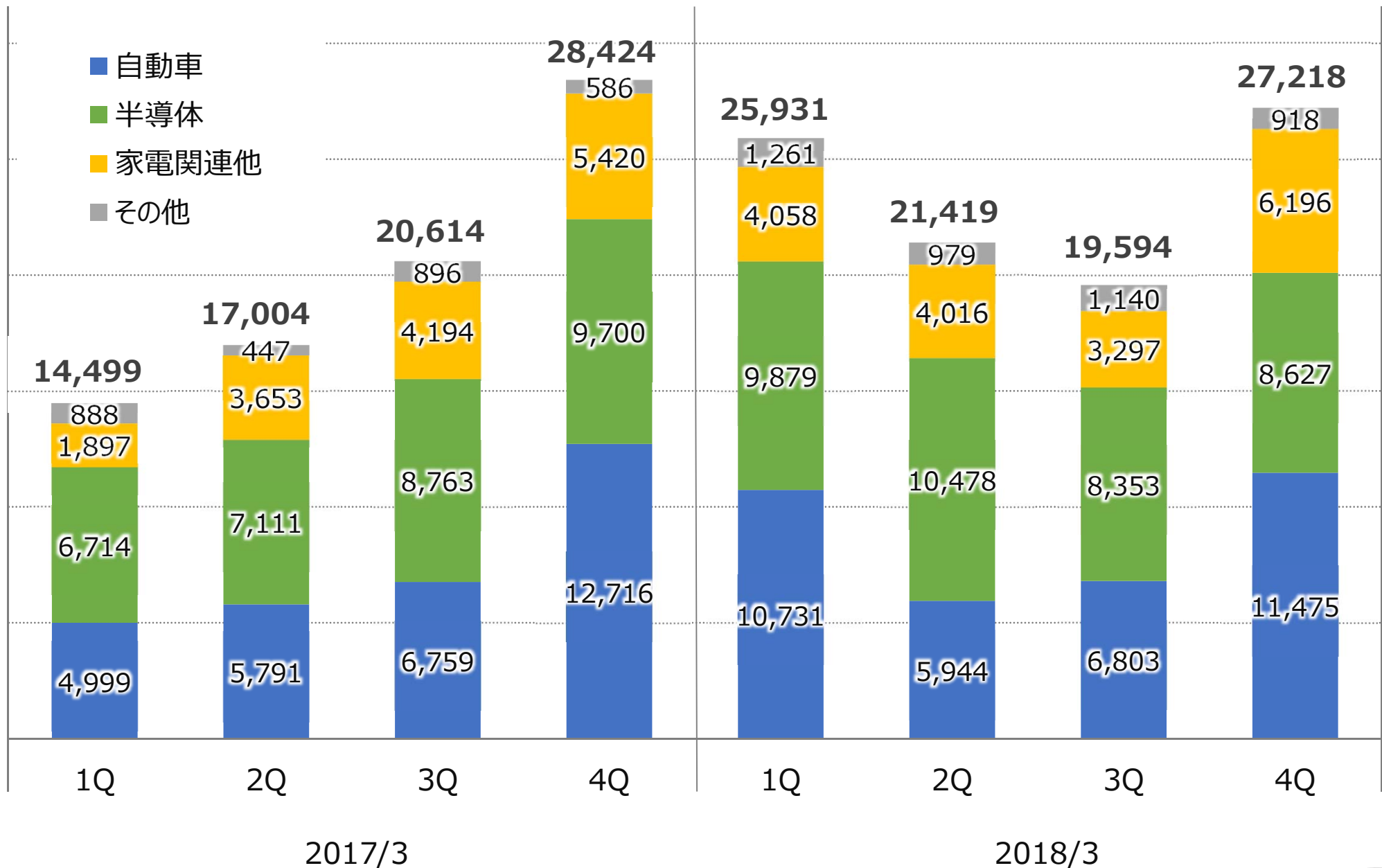
Hirata





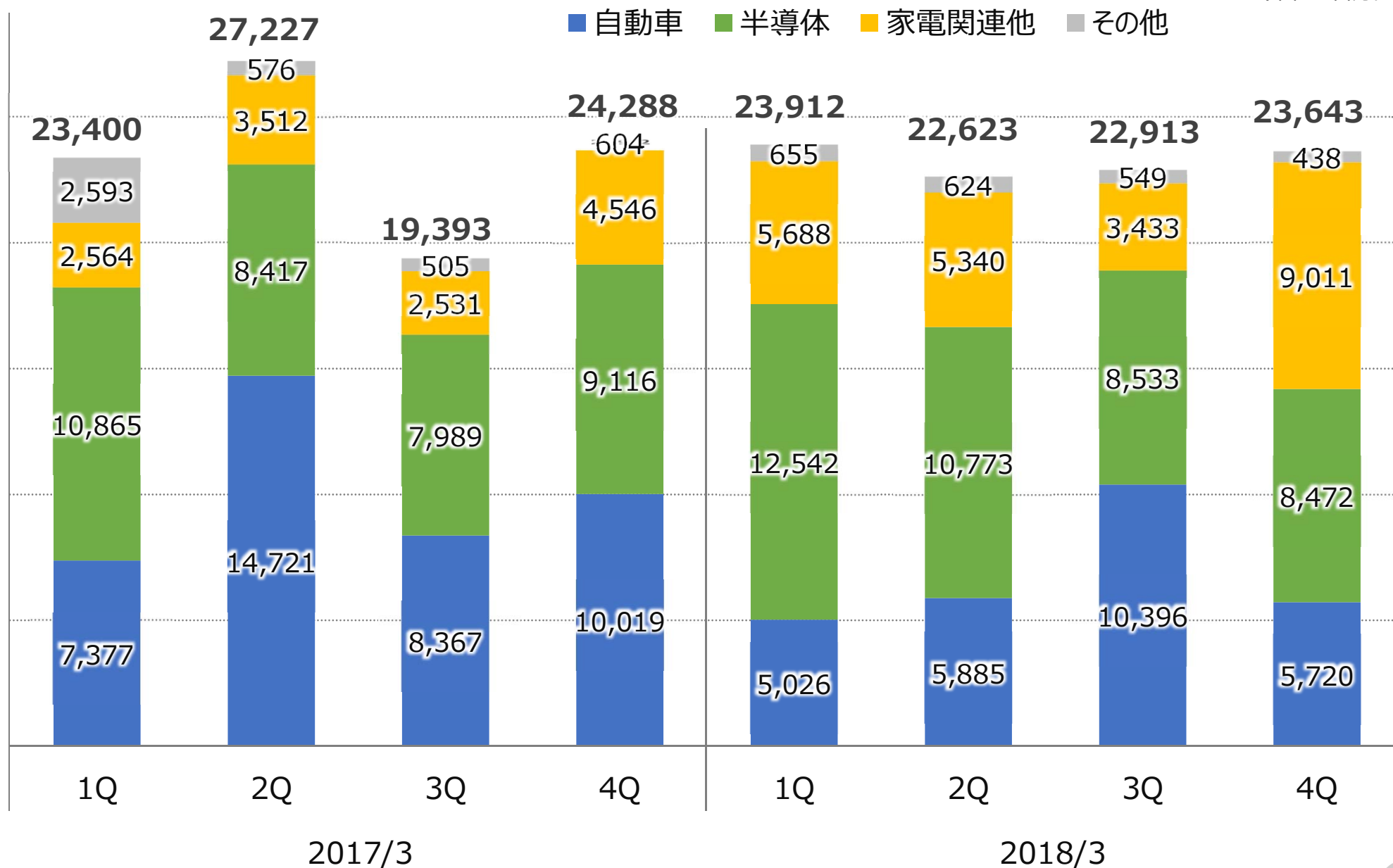
## 事業部門別四半期売上高の推移

(単位：百万円)



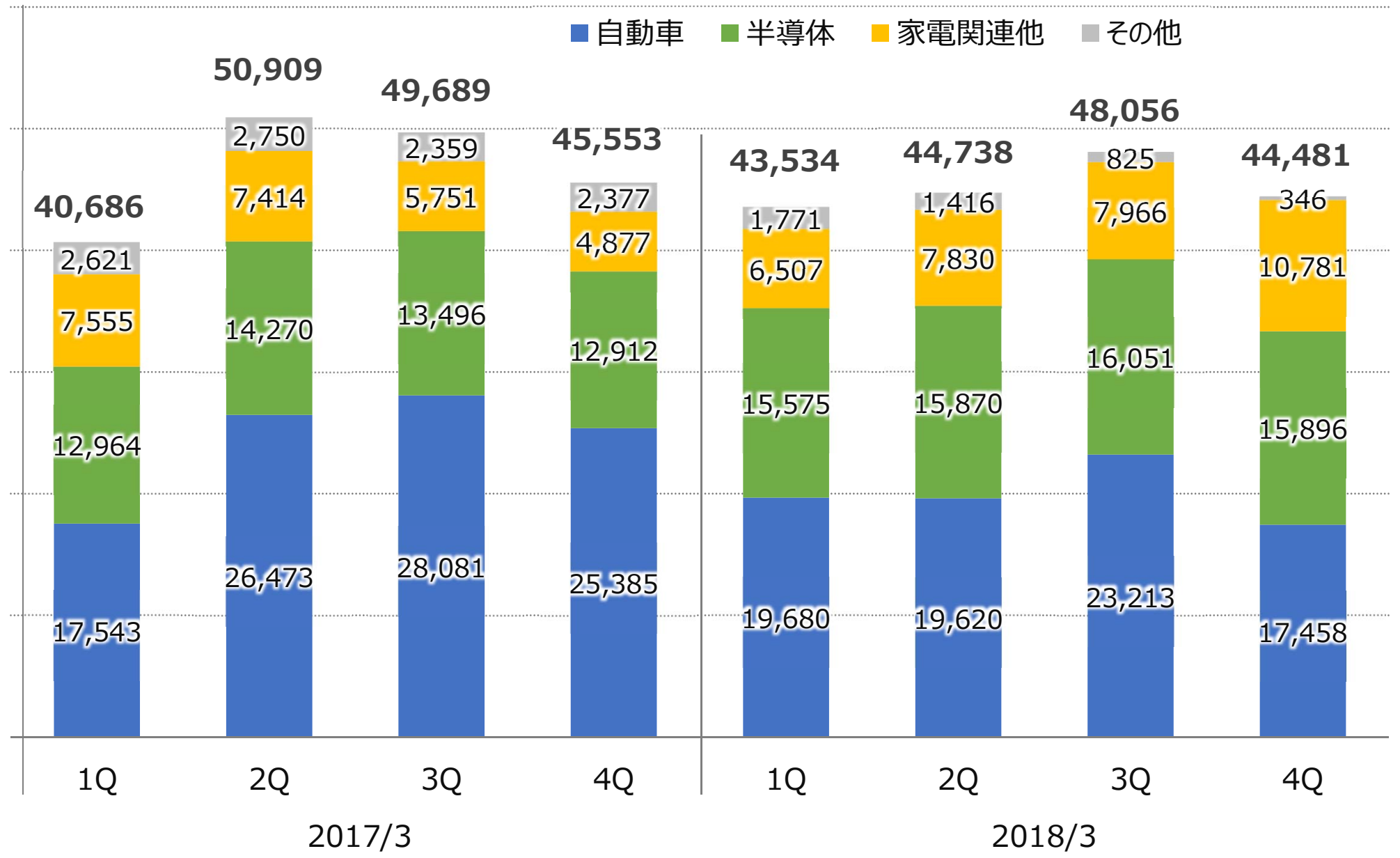
## 事業部門別四半期受注高の推移

(単位：百万円)

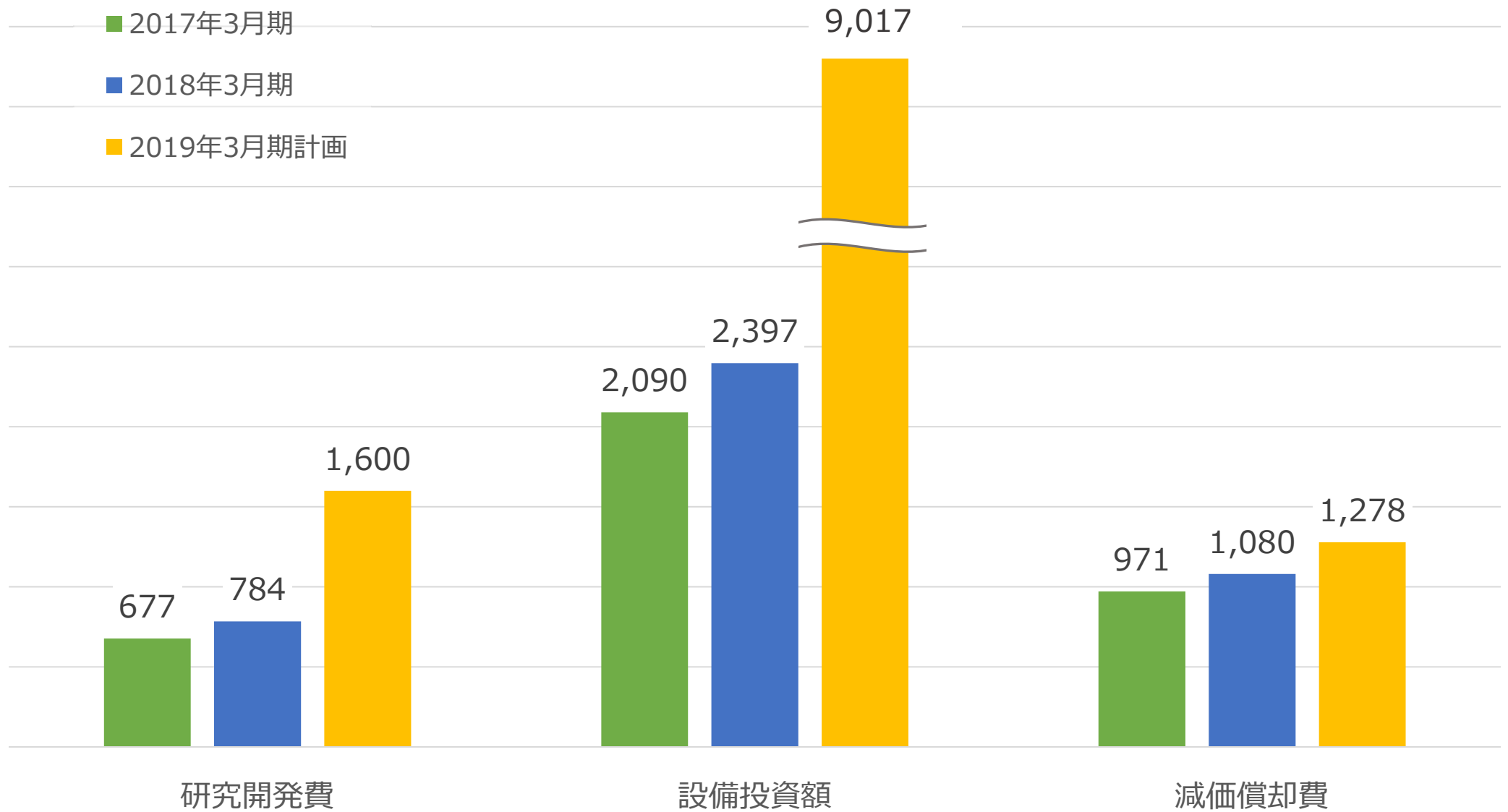


## 事業部門別四半期受注残の推移

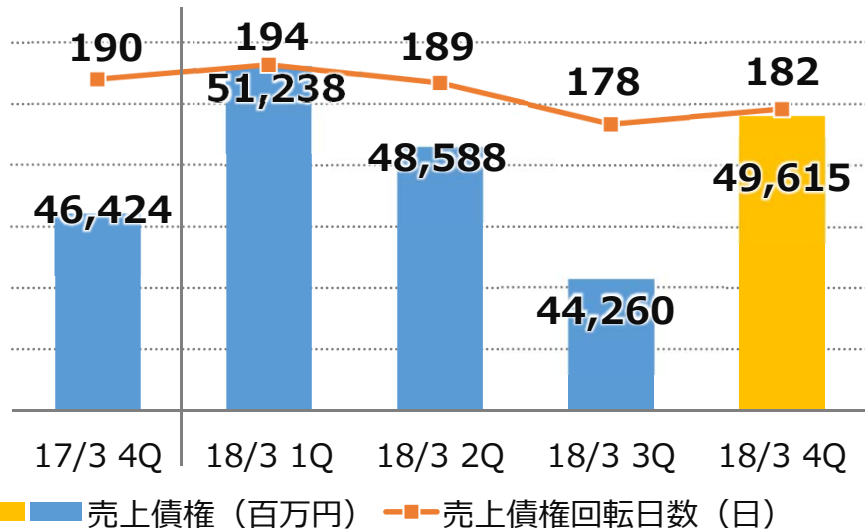
(単位：百万円)



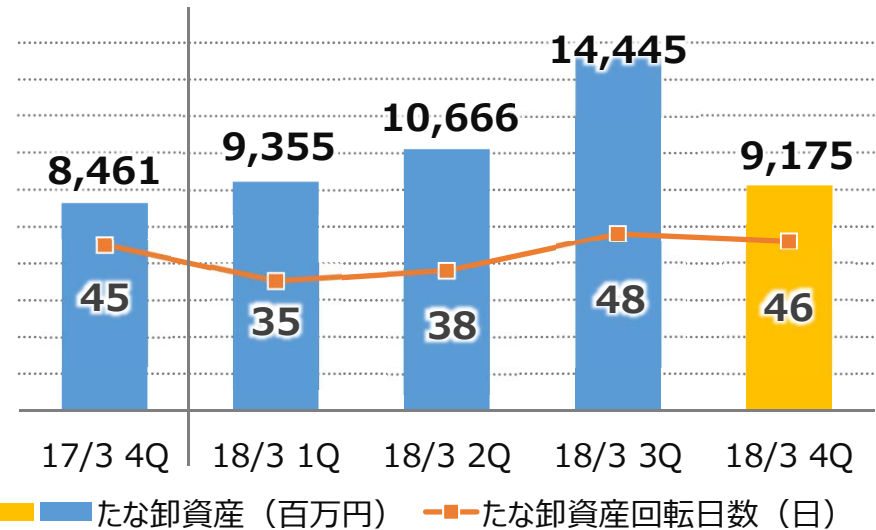
(単位：百万円)



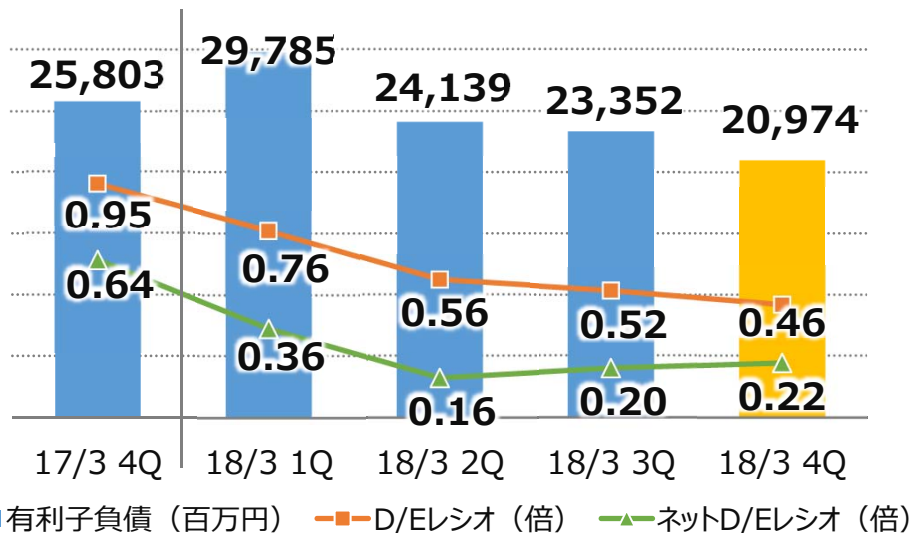
## 売上債権・売上債権回転日数



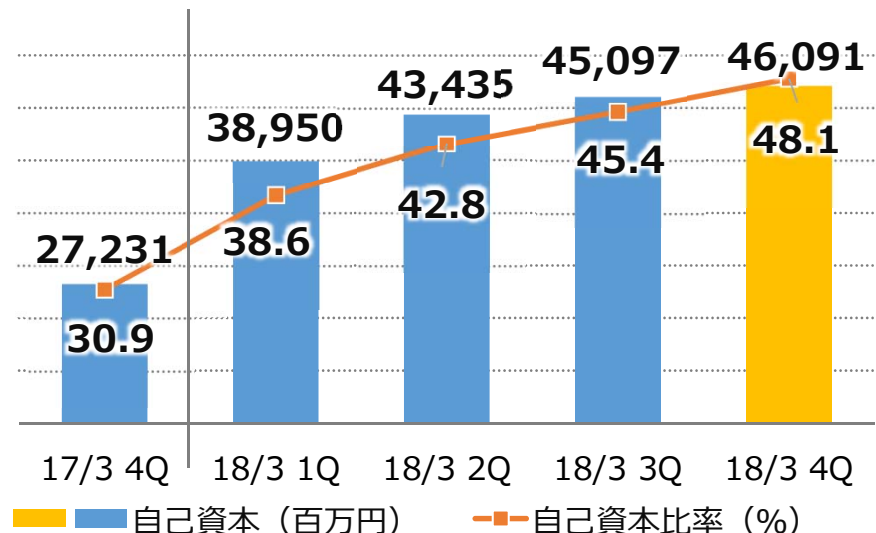
## たな卸資産・たな卸資産回転日数



## 有利子負債残高・D/Eレシオ・Net D/Eレシオ



## 自己資本・自己資本比率



【注】売上債権回転日数、たな卸資産回転日数については、各四半期毎の期中平均値にて算出しております。

## ご注意

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、為替レートなど潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。